対戦形式のいわゆる大喜利。見事ファンの支持を得て、首位打者賞

○＜ホームラン王＞ ELEVEN NINES ミャゴラ

「やんなるぐらい自己嫌悪」

チラシに超真剣幻想的情熱群像劇!!とあるが正に。

若手俳優陣が奮闘した。

【俳優賞】

○櫻井保一　yhs「白波っ！」の南郷力丸役。舞台狭しと疾走し、魅力的な南郷力丸を造型して終始舞台を牽引した。

○高橋海妃　MAM「父と暮らせば」の娘役。広島で被爆して生き残った負い目から結婚に踏み切れずにいる娘の思いを情感豊かに演じた。

以上、各賞を概観したが、TGR2017は例年に比較して収穫の多い年だったと思う。たとえば、受賞は逃したが、北海道演劇財団「ぐりぐりグリム第一章：おかしな森のヘンゼルとグレーテル」、劇団words of heartst「アドルフの主治医」、MAM「父と暮らせば」（俳優賞に高橋海妃）、マイペース「ばかものの すべて」等、いずれも記憶に残る作品であった。

二〇一七年、札幌劇場連絡会は韓国小劇場協会と交流協定を結び、日韓劇場祭交流事業をスタートさせた。その第一弾としてTGR期間中の一一月二二日・二三日にソウルの劇団竹竹（チュクチュク）が「マクベス」をパトスで上演した。シンプルな舞台、優れた身体性、圧倒的な舞台だった。世界の水準は果てしなく高いのだと思わせるに十分だった。来年は札幌の劇団がソウルの大学路小劇場祝祭に参加する。

TGR札幌劇場祭はいまだ発展途上にある。試行錯誤と軌道修正を繰り返しつつ、あるべき姿を求め続けて行きたいと思う。

札幌演劇シーズン二〇一七年の動向

札幌演劇シーズン実行委員会　事務局長　飯塚　優子

二〇一七年と二〇一七年度の演劇シーズン上演演目を以下に列挙します。（上演順）

二〇一七冬シーズン（二〇一七年一月二八日～二月二五日）

千年王国「狼王ロボ」　※レパートリー作品

札幌座「北緯43°のワーニャ」

NEXSTAG「Laundry Room No.5」

風蝕異人街「邪宗門」

弦巻楽団「君は素敵」
高文連全道大会最優秀作品：北見緑陵高校
「学校でなにやってんの」

二〇一七夏シーズン（二〇一七年七月二二日～八月二三日）

ｙｈｓ「忘れたいのに思い出せない」
パインソー「ｅｘｔｒｅｍｅ＋ｌｏｇｉｃ（ｓ）」
ミュージカルユニットもえぎ色
「Ｐｒｉｎｃｅｓｓ　Ｆｉｇｈｔｅｒ」
イレブンナイン「あっちこっち佐藤さん」
※レパートリー作品
ｉｎｔｒｏ「わたし」

二〇一八冬シーズン（二〇一八年一月二〇日～二月二二日）

イレブンナイン「サクラダファミリー」
ホエイ「珈琲法要」
※ＴＧＲ札幌劇場祭２０１６大賞作品
円山ドジャース「誰そ彼時」
弦巻楽団「ユー・キャント・ハリー・ラブ」
※レパートリー作品
コンカリーニョプロデュース「ちゃっかり八兵衛」
高文連全道大会最優秀作品：余市紅志高校
「おにぎり」

このかんの動きを以下に箇条書きでまとめてみます。

1．レパートリー作品、定着

一度演劇シーズンで上演された作品を、もう一度演劇シーズンで再演するレパートリー作品の上演が定着。イレブンナイン「あっちこっち佐藤さん」が、「狼王ロボ」の記録（三五五八人）を破り、一演目で四三三五人という大きな記録をつくりました。二〇一七夏は他の劇団も健闘し、一シーズンで八四〇〇人超を集め、シーズン始まって以来、最多のお客様を迎えました。

2．ＴＧＲ札幌劇場祭の大賞作品を演劇シーズンで上演、初めて実現

毎年一一月に札幌市内一〇か所の劇場で行われるＴＧＲ札幌劇場祭の大賞作品を演劇シーズンで再演するという流れをつくりたい、これは当初からの構想でした。しかしＴＧＲには市内の劇団だけでなく、全国、海外からも参加劇団があり、ここ数年は立て続けに海外作品が大賞となりました。そのため予算や受け入れ態勢の面で再演にこぎつけることができず、また当初は札幌市の考え方が「演劇シーズンへの参加は札幌に拠点をおく団体に限る」とされていたため、以前、青森の弘前劇場がＴＧＲ大賞となった時には、演劇シーズンでの上演ができませんでした。その後、市の方針が緩和されＴＧＲ枠に関しては札幌以外の団体の演劇シーズン参加が可能となりました。二〇一八冬シーズンでは、ＴＧＲ２０１６の大賞作品「珈琲法要」を、東京の劇

団ホエイが上演します。

3．高文連優秀作品の上演が盛況

高校演劇の優秀作品は、地区大会→全道大会→全国大会と高みを目指しますが、年度をまたぐ関係で、全道大会に出演したメンバーで全国大会（八月）に臨むことができないという制度上のジレンマがあります。このため演劇シーズンでの上演は、全道を勝ち取ったオリジナルメンバーによる最後の上演機会です。当原稿を書いている時点で二〇一八冬シーズンでの上演を終了した余市紅志高校は、昼夜二回公演で五二〇人を集めました。

このように様々な工夫を重ねて演劇シーズンは少しづつファンを増やしつつあります。演劇を見慣れた人だけでなく、コンサートやライブに出かけたり映画をみるのと同じように、演劇に足を運んでもらえるにはどうしたらよいか。札幌を訪れる観光客にも楽しんでもらえるような、熱く気持ちの良い舞台を毎回継続して届けるにはどうしたらよいか。幅広い観客層に期待してもらえる意外性や新鮮な刺激を盛り込むにはどんな作品が良いのか。間もなく開幕する二〇一八冬シーズンで一三回目を迎える札幌演劇シーズンの課題は山積しています。

しかし二〇一二年のスタート時点を振り返れば、一公演で一〇〇〇人前後を集めることのできる中堅劇団が札幌だけで一〇近くある現状は、地域の演劇人になにがしかの意識改革が起きている結果ではないかと思います。シェイクスピア、チェーホフなどの古典的作品から、東西の名作、アングラ劇、創作劇、人形劇、ダンスや生演奏とのコラボ、ミュージカルなど、様々な魅力を持った作品が演劇シーズンで上演されるようになりました。インターネットを活用する若い人たちのパワフルな活動が、演劇をめぐる状況を的確に照らし出し、方向性を見せてくれます。このようなエネルギーを総動員して、演劇が札幌という都市の魅力の一端を担えるようになれたら素敵だと思います。

もちろん、ただ観客数が多ければよいというのではな

千年王国「狼王ロボ」

イレブンナイン「あっちこっち佐藤さん」

く、演劇が身近にあることで私たちの毎日が心地よく、充実したものであること、本当のことが良く見えるようになることがだいじです。演劇にはそんな素晴らしい力と魅力があることをより多くの人に知ってもらいたいから、見てくれる人を増やしたい。演劇シーズンの目標は、やはりそこに帰結するのです。

二〇一七年のレッドベリースタジオ～リニューアルと心にしみる出会い

レッドベリースタジオ主宰　飯塚優子

二〇一七年の年賀状からお披露目した新しいロゴタイプで、まず入口の看板を新調しました。これまで頑張ってくれた木製の看板は、なんとキノコがたくさん生えてきて、かわいいけれど文字が読みにくくなってしまいました。そこでこんどは真鍮の金属板。アーティストの佐々木秀明さんにデザインと製作をお願いしました。そしてこの看板を照らすスポットライトを新たに設置。長いこと電球が切れていた外壁のライトも明かりが入りました。催し物の案内をする掲示板も、寂しげな蛍光灯を明るいＬＥＤに交換して見違えるように元気な雰囲気になりました。

一方、八月には水道のパッキング劣化が原因で、地下の収蔵庫が水浸しになりました。ステージを組むための部材など、濡れたものを全部庭に広げて乾かし、使えなくなったものを大量に廃棄。ついでにこの騒ぎで大量のほこりを吸ったことが原因で、私自身が胸膜炎で肺に炎症を起こし大変なことでした。

催しの企画では、今年は色々と念願がかないました。母が残してくれたレッドベリースタジオのピアノを、もっともっと使っていただくために九月からスタートした「マンスリーピアノ」は、辻千絵さんにコーディネートをお願いして、これまで三回開催しました。クラシック、映画音楽、朗読とのコラボなど、この先も楽しい企画が次々登場します。ふだんは脇の部屋に収蔵しているピアノを、床に傷をつけずに移動するのは大変なことでしたが、特殊なキャスターに取り換えて、なんと女性二人でも動かせるようになりました。レッドベリーにピアノがあることを知っていただけたら、今後、出番が益々増えるでしょう。

ハーモニカの名手・千葉智久さんや、切り絵・影絵で活躍する黒川絵里奈さん、小林なるみさんの朗読など、ぜひレッドベリースタジオで、と声をかけさせていただいてライブや公演が実現しました。

横浜ボートシアターの語り公演「にごりえ」では、通常三〇人前後と考えている収容人数を大幅に超えて五六名のお客様を迎え、新しい可能性に驚きました。